

建設職能国保組合第55回臨時組合会開催

東京建設職能国保組合は、7月24日午後2時から建設職能会館で、組合会議員改選後初めてとなる第55回臨時組合会を開き、議長に佐藤博氏を選出し、平成25年度事業報告、決算報告、決算剰余金などを審議。いずれも原案通り可決承認されました。↓4面へ

財政悪化さらに進む！

平成27年度保険料値上げ必至の情勢

平成25年度まで組合員の加入増強と減少を食い止める目的で、積立金を取り崩すなどして7年間保険料を据え置いてきました。その結果平成25年度決算は2・7億円の単年度赤字となりました。

民主党政権下で行われた事業仕分けは、あらゆる補助金交付団体を組上に載せ、仕訳人の独自感覚で見直しが行われました。国保組合も、一部の補助金について、各組合の財政力に応じた補助方法に改めるとともに根拠の曖昧な補助金は廃止するという結論が出ました。国保組合の財政は、どの国保組合も同じですが収入に応じて支出を抑制することではできず、支出に合わ

せて予算を組まねばなりません。収入は組合員の皆様から納めていただく大切な保険料と国や都からの補助金が主な財源ですが、補助金の減少や、医療費などの支出が増える、保険料の値上げをするか積立金の余裕分を繰入れるしか方法はありません。

国の予算編成方針は、積立金の過大な保有で社会の誤解を招くのは好ましくないとの見解のため積立金に余裕のあった当組合は、繰入金を投入して見直しの行方を見極めようとなりました。国は急激な補助金の減少で組合財政が一気に悪化しないよう激変緩和措置をとりましたが、平成24、25年度の決算の結果は、

確実に大幅減額となったことを表しています。

平成26年度は財政健全化に向け管理経費を大幅に圧縮し、かつ保険料の大幅値上げに踏み切りましたが、赤字幅を一気に解消するには至らず、単年度赤字が半分程度に縮小するにとどまり、平成27年度も保険料の大幅値上げは避けられない状況です。

被保険者の方々がいざという時に手軽に医療サービスが受けられ、毎日を安心して過ごせるようお手伝いするのが国保組合の使命であります。皆様のため職能国保を守り抜くため奮闘努力して参ります。組合員の皆様の深いご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。